日 時 平成20年2月27日(木)午後7時～9時

場 所 市役所南館 講堂

出席者 (委員) 12名
(サポートスタッフ) 2名
(事務局) 4名

会議内容

グループ討議

前回の議論を踏まえ、2つのグループに分かれて、グループによる討議を行った。

Aグループ：自治会等の地縁型

Bグループ：NPOなどテーマ型

<主な内容と意見>

【Aグループ】

市民相互の協働について

市民同士の交流が必要である。

地区同士の交流が必要である。

世代間の交流が必要である。

行政からの分かりやすい情報提供が必要である。

できる人が助けることから、市民相互の協働がはじまると思う。

地域の団体も、縦割りとなっている。

既存の団体の整理統合が必要である。

議会について

議員も、地域に入っていくべきである。

議員は、『出たい人』ではなく、『出てほしい人』を推薦すべきである。

地域協議会が機能すれば、議会の議員は少なくてもすむのではないか。

自治会について

防災など、直接影響のあるものから、自治会も含めたトータルな組織が必要である。

地域自治という市民への意識づけが必要である。

自治会に入らない理由として、役員になりたくないからという人がいる。

自治会に入るメリットがないという人がいる。

個人の意見や提案は、取り上げてくれないという意見もある。

自治会費の高い地区があるのではないかな。

自治会の参加は、任意だから仕方ない。

全員の参加は、困難であると思う。

自治会（住民）の高齢化が問題である。

地域協議会について

地域協議会も、住民の総意の形成が必要である。

地域内の各団体によって構成されるのが、地域協議会だと考えている。

地域の状況に応じた地域自治を進めることが、必要とされている。

住みやすい地域をつくるための話し合いの場、仕組みづくりが必要である。

行政と同じように縦割りになっている地域の団体の横のつながりをつくる必要がある。

高齢化がさらに進むと、今の行政では適応できなくなると思う。そのためには、地域で身近な問題を解決していくことが大切であり、そのことを、もっと市民に伝えていかないとけない。

自治基本条例について

行政の責務を明確にすべきである。

市民が行政を評価できるシステムが必要である。

市民の義務、責務を規定すべきである。

市民の権利を規定すべきである。

大阪狭山市のよさをもっとアピールすべきである。

議論の過程を知らせるべきである。

将来のまちづくりのイメージを共有することが大切である。

提案型の文章にしていくのもよいと思う。例えば、「～しよう」。

【Bグループ】

情報の広がりをどうしていくのが、課題である。

（久先生）

- ・枚方市では、中学生まつりがあり、NPOセンターで会議を開催し、世代間交流が行われている。

社会教育、学校教育、生涯学習の関係がわかりにくい。

地域福祉ネットワークで、防災、災害時の見守りを行っていくのがよいと思う。

(久先生)

- ・日中に災害が起こったときにどうするのかということであれば、中学生が防災リーダーになっている地域もある。

池田小学校の事件以降、中学校の門が閉ざされた。

熟年大学で、教室を借りに行くと、様々な対応であった。

『狭山歴史歩き隊』として、NPO法人あまの街道と狭山の副池自然づくりの会が協働して、事業展開を行っている。

市民活動の拠点は、市民活動支援センターと思うが、実際に、どれだけの市民が知っているのかが問題である。

(久先生)

- ・メーリングリストによる情報交換も有用であり、市民カレンダーや川西市のNPOの運営によるブログなどがある。
- ・伊丹市では、タイアップ事業、つまり2つ以上の団体が一緒に事業をしないと、補助金を出さないことになっている。

きっかけづくりが必要であり、根本は、人のつながりであると思う。

市民活動支援センターでは、『市民の力』という市民活動団体を紹介した冊子の第2版を作成している。

団体同士のコラボレーションが必要である。例えば、公民館利用団体間のつながりを作るのも一つである。

市民活動支援センターと公民館とのつながりも、重要であると思う。

(久先生)

- ・団体の活動資金が苦しいなら、カンパ箱も一つの手である。DVDによるPRも有効である。
- ・『高島屋のクマ』の話で言えば、NPOのメーリングリストでその話が流れて広まった。

大阪狭山市でも、市民活動支援センターが、高島屋からクマのぬいぐるみをいただき、市内の保育所などに、配布した。

もう一度、『教育のまち 大阪狭山市』と言われるように、頑張るべきである。

みんなが集える場が、必要である。例えば、毎月第 曜日の午後 時に市民活動支援センターで、やっているとか。

地域の大学生の参加も必要である。すでに参加してくれているのは、帝塚山学院大学の夢工房という紙芝居のサークルが狭山池まつりに参加してくれている。

狭山池クリーンアクションが団体の交流の場になっている。

【事務局】

- ・ 次回は、3月26日（水）に開催予定。